

# ふすま同窓会報

第 72 号

令和 6 年 7 月 1 日

ふすま同窓会本部



## ごあいさつ

ふすま同窓会 会長 高橋 節 (人文 2 回)

会員の皆様には、お元気にお過ごしのことと思います。同窓会会長就任 2 年目を迎えました。5 月 18 日に開催された総会において新年度の事業計画、予算等をご承認いただき、役員、事務局を挙げて諸計画の具体化に取り組んでいるところです。

今年が目玉は、10 月開催予定の「ふすまの集い」になると思います。これまで、「ふすまの日・ふすまの夕べ」として実施してきましたが、全国の会員に向けた呼びかけという点からは課題を抱えていたように思います。早い時期から実行委員会を立ち上げ、同窓会事業はもとより大学での取組と連携した展開を考えています。(詳細は、下記参照。) 本号での案内をご覧いただき、奮って参加いただきたいと思います。

また、同窓会の法人化(一般社団法人)に向けた検討を進めたいと思います。新規会員の入会に向けた取組や記念祭等諸活動において任意団体のままでは課題が多いと感じています。必ずしもメリットだけが生ずる訳ではありませんが、法人化することにより公信力を高め、今後の活動に繋げてはどうかと提起したところです。年内に検討の結果を取りまとめホームページで意見を求めたいと思います。

今年も 508 人の学生会員を迎えました。幅の広い年代から構成される当会の魅力を最大限発揮できるように取り組んでいきますので、ご協力の程よろしくお願ひします。

## 令和 6 年度 「ふすまの集い」に集まろう!!

令和 6 年度「ふすまの集い」実行委員長：高嶋 智弘 (人文 21 回)

### ◆懇親会

日 時 / 令和 6 年 10 月 25 日 (金) 18 : 00 ~  
会 場 / 山形国際ホテル 富士の間  
(山形市香澄町三丁目 4 番 5 号)  
会 費 / 8,000 円 (事前申込)

### ◆講演会

日 時 / 令和 6 年 10 月 26 日 (土) 13 : 30 ~  
会 場 / 山形大学理学部 ふすまホール  
講 師 / 佐藤 夏雄 氏  
(理学部第 1 回卒業 / 国立極地研究所名誉教授)  
演 題 / 南極の大自然と観測隊  
~ 厳しく壮大な大自然と閉ざされた環境での越冬生活 ~

◆当番幹事 人文・理学部 21 回 / 人文・理学部 36 回・37 回卒業

### <懇親会の申込方法>

令和 6 年 9 月 30 日までに、ゆうちょ銀行振替口座 (記号番号 02250 = 9 = 122713 / 山大ふすま同窓会) 又は山形銀行普通預金口座 (県庁支店 / 768693 / 山形大学ふすま同窓会幹事小野田翔) に会費を振り込んでください。ゆうちょ銀行振込の際には卒業学部・年度もご記載ください。山形銀行振込の際には同窓会ホームページの参加申込フォーマットに所要事項を入力し送信してください。

[ 10 月 26 日・27 日小白川キャンパスで第 58 回八峰祭 (大学祭) が開催されます。26 日 10 時から「ふすまホール」で第 36 回ティーデマン・ふすま賞受賞式・講演が予定されています。併せて、ご参加ください。 ]

令和 7 (2025) 年度 ふすま同窓会総会予告

期日 (予定) / 令和 7 年 5 月 17 日 (土)  
場所 (予定) / 山形大学ふすまホール

◆◆今回の会報は、学生会員から 2 ページ作成していただきました。多くの若い会員も楽しめる会報にしていきたいと考えております。◆◆

# 令和6年度 ふすま同窓会総会報告

## 1 概要

令和6年5月18日(土)、理学部先端科学実験棟4階の「ふすまホール」を会場に令和6年度ふすま同窓会総会が開催されました。

これまで総会は山形市内のホテルを会場に開催されてきましたが、かつての学び舎に集い学生時代に想いを馳せていただくとともに、百年記念碑など同窓会関係施設をご覧いただくという趣旨から、同窓会が視聴覚機材整備等の支援を行った「ふすまホール」で開催することにしました。

総会では、高橋節会長（人文2回）が議長に選出され議事が進められました。最初に、事務局より令和5年度事業報告及び決算報告が、齋藤知行監事（文理15回）より監査報告が行われ、いずれも報告のとおり承認されました。続いて、事務局よりふすま同窓会会則の改正、ふすま同窓会基金規則の制定、ティーデマン・ふすま賞規則の制定について説明が行われ、いずれも案のとおり決定されました。引き続き、事務局より令和6年度事業計画（案）及び予算（案）、大学の人事異動等に伴う新役員（案）が説明され、いずれも案のとおり決定、承認されました。（総会出席者数35名）

総会終了後、小白川キャンパス内の厚生会館食堂に会場を移し、懇親会が開催されました。懇親会は初めてとなる立食形式で行われましたが、来賓として森岡卓司人文社会科学部長、並河英紀理学部長、中村文子人文社会科学部副学部長にご出席いただき、また、遠路参加いただいた加藤学関西支部長（人文3回）、宮城洋三仙台支部事務局長（文理5回）のスピーチもあり、大変な盛り上がりとなりました。（懇親会出席34名）



り、大変な盛り上がりとなりました。（懇親会出席34名）

## 2 令和5年度事業報告

同窓会ホームページの“同窓会の活動⇒行事／事業”をご覧ください。

## 3 令和4年度決算報告

令和5年度収支決算書（18頁）のとおり。

## 4 会則改正について

改正後のふすま同窓会会則、新たに制定されたふすま同窓会基金規則及びティーデマン・ふすま賞規則については、同窓会ホームページの“ふすま同窓会の概要⇒例規”をご覧ください。

## 5 令和6年度事業計画

同窓会ホームページの“同窓会の活動⇒行事／事業”をご覧ください。

## 6 令和6年度予算

令和6年度予算（18頁）のとおり。事務局より、基金の取扱い・勘定科目等の変更により、令和5年度決算との比較を記載していないが、予備費を除く実質支出額はほぼ同額である旨の説明がなされました。

## 7 令和6年度の同窓会新役員について

常任理事 中村文子（人文社会科学部副学長）

新任理事 人文社会学部 佐藤 もえ

佐藤 凧人

理 学 部 菊地 智貴

ふすま同窓会（総務） 小林正宣（人文7回）



## 人文社会科学部長就任のご挨拶



人文社会科学部長 森岡 卓司

平素より、人文社会科学部の教育・研究活動に、多大なご支援を賜っておりますことに、心よりの御礼を申し上げます。令和6年4月より、人文社会科学部長を務めております森岡卓司と申します。この度は、ふすま同窓会報誌上にご挨拶の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。せっかくいただいた機会ですので、この場をお借りして、人文社会科学部の近況について、ご報告を申し上げます。

前身の人文学部を改組し、人文社会科学部として新たな出発をした平成29年4月から、7年が経過しました。その間、人文社会科学部は、多様な研究活動を展開し、また、多くの卒業生を地域社会に送り出してきました。

山形大学を代表する研究組織のひとつであるナスカ研究所の研究成果は、しばしばニュースサイトの主要トピックスにもなっており、みなさまのお耳に入る機会も多いかもしれません。人文学部時代にスタートしたこの研究プロジェクトは、現在、人工知能やリモートセンシングといった最先端の技術を取り入れながら展開しており、世界的な評価を集め続けています。もちろん、人文社会科学部の組織的な研究活動は、ナスカ研究のみにとどまるわけではありません。外部の研究機関や施設、そしてコミュニティとも深く関わりながら、地域社会の文化や歴史について探求する複数の共同研究プロジェクトが展開されていることは、総合文系学部としての人文社会科学部の特長のひとつにもなっています。とはいえ、たとえばYU-COE（山形大学先進的研究拠点）の認定状況などに照らしても、組織研究のカルチャーをもともと持っている理系諸学部に比べると、われわれの共同研究にはまだまだ発展の余地があります。幸いにも、学会賞を受賞するなど、学術的に高い評価されつつある若手・中堅のスタッフも増えつつあり、学部としてよりよい研究支援のあり方を模索しながら、今後の伸展を期したいと考えています。

大学に課せられたもうひとつの使命である教育活動においては、従来の専門教育に加えて、課題解決型演習、ジェネリックスキルとしての情報リテラシー教育、

そして外国語教育という3つの実践型教育を実施してまいりました。この新たな取組には、ふすま同窓会からの多大なご支援をいただいております、改めて御礼を申し上げます。学生たちは、大学から地域社会、そして海外へと踏み出し、多くの貴重な経験を得ています。そのうちいくつかについては、県内のメディアにとりあげられる機会もありますが、山形大学、そして人文社会科学部のウェブサイトでもご紹介しておりますので、折がありましたらぜひご覧ください。こうした新たな教育の実施には、必ずといっていいほど試行錯誤が伴いますが、今後も不断の改善を続けながら、未来の社会で活躍できる力を持った学生の育成を目指してまいります。そしてもちろん、専門教育もおろそかにするつもりはありません。ティーデマン・ふすま賞にふさわしい優秀な成果をあげられるよう、日々の指導に努めてまいります。

以上、簡単ではございますが、人文社会科学部の近況をご報告申し上げます。国立大学の文系学部に向けて吹く風は、現在、必ずしも順風満帆というわけではなく、乗り越えるべき課題も眼前に多くあります。しかし、たとえどのような状況にあっても、旧制山形高等学校、山形大学文理学部以来の豊かな伝統に支えられながら、学部のスタッフ全員が力を合わせて、研究教育機関に与えられた社会的な使命を果たしてまいりたいと考えます。ふすま同窓会のみなさまにおかれましては、今後ともご協力、ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

### 略 歴

- 1972年3月 兵庫県神戸市に生まれる
- 2003年3月 東北大学大学院文学研究科単位取得退学
- 2003年4月 山形短期大学専任講師
- 2009年4月 山形大学人文学部准教授
- 2019年12月 山形大学人文社会科学部教授



## 伊丹から山形へ一飛び

関西支部

今年1月、関西支部長を引き継いだものの、「暗中模索」の日々。前支部長の里村さんが奈良平城宮跡のガイドをされていると聞いたので、とりあえず、6月2日に「平城宮跡ハイキングと懇親会」を企画してみた。慣れないエクセルで支部の名簿作りから始め、約120名の方にご案内も出した。今、毎日のように「出欠」のご返事をいただいている。中には、「物故された」という悲しい知らせも届く。

さて、5月18日は、山形でのふすま同窓会総会に出席した。幸い、伊丹在住なので、山形は「一つ飛び」だ。「総会」では、前々会長の長沼さんから、ロシア語の野島先生のお話が聞けたのがうれしかった。私が今日、ロシア語のガイドをしているのは、先生の「息子同様の扱い」の賜物だ。夜は同年の舟岡さんに「思い出の花小路」に連れて行っていただき、酔いつぶれた。翌日は、仙台在住で、下宿友達の原君の運転で、米沢を訪問した。上杉博物館や上杉御廟に感動したが、ウコギのある武家屋敷群が消滅しかかっていたのは、残念だった。



私にとって、山形は、地名を聞いただけで、胸がきゅんとなる青春の地。支部長になったお陰で、山形が少し近くなった気がする。

加藤 学（人文3回）

## 北陸の地より

北陸支部

令和5年11月、ふすま同窓会北陸支部の定期懇親会が開かれた。4年ほどコロナに翻弄され何もできなかったが、令和5年に入り、日常の状態を取り戻し、久しぶりに支部長より懇親会案内の電話があった。懇親会には毎年ふすま会本部の方が見られる。令和5年度はふすま同窓会の会長、高橋節氏であった。山形のお土産に加えて、同窓会の情報をいろいろともたらししてくれるのは楽しみの1つである。今回、北陸支部の参加メンバーは石川県から松田博男支部長（文理18回、数学）、松岡史和氏（文理16回、数学）、富山県から蓮井新吉（文理16回、化学）が出席し、計4名の集いとなり、山形の思い出を語り合った。参加されなかった人の情報も支部長が伝えてくれた。後継者不足が悩みの種である事も窺い知れた。私もなるだけ会合に出ることを目標としよう。

今年になって支部長から電話があった。令和6年度の活動について相談したいとのこと。集まったのはここ2年間の行事（施設見学、懇親会）に参加したメンバー。話し合いのあと、施設見学の候補場所の予察を兼ねて、三つの施設を見学した。金沢市にある石川県立図書館、金沢市に隣接する野々市市にある国指定文化財の喜多家住宅と金沢工業大学図書館を訪れた。案内役は松岡氏、車の運転は松田氏。特に印象に残ったのは、金沢工業大学図書館であった。昔、松岡氏が教鞭をとっていた事を聞いていたが、今だに職員の方や学生に知る人がいるらしく、深い敬意を持った。素晴らしい建物に沢山の成書に囲まれて研究した姿が想像できて嬉しかった。松田氏の配慮に感謝する。

私が石川県や富山県に興味を抱いたのは、あながち偶然とは言えない。私が山形の2年の夏、友人と能登半島（奥能登）に旅行に行ったときのことであった。海はどこまでも青く静かな波に心が癒された。浜辺に行くと、漁師さんが声をかけてきた。この塩舐めてごらんと言うのだ。私は精製された白い塩を、友人のほうは少し黒ずんだ天然の塩を選んだ。私は顔をしかめるほどのしょっぱさだったが天然の塩を舐めた彼は意外としょっぱくないと言うのだ。天然の方はいろいろな成分を含んでいて意外と「あまい」と友人は言うのだ。漁師さんは笑いながら精製されたものと天然のものではあきらかに違うと言った。私はショックを受けて山形に帰った。それが私の真の人生の始まりであった。何事も「みかけ」にまどわされないということだ。

蓮井信吉（文理16回）

## 東京ふすま会活動報告

東京ふすま会

## 令和4年度活動報告

まん延防止等重点措置が3月21日を以って全面解除され社会経済活動が活発になったため、主催行事の会場確保と日程調整に苦労しました。

## 1. 第1回常任理事会

4月22日 会場：高円寺事務所 参加者16名  
総会付議事項の他、会員増加について議論した。

## 2. 総会・理事会

5月27日 会場：学士会館 参加者38名  
◎記念講演 長谷川 憲司氏（理4）医学博士  
「中高年の眠り解決」



## 3. 第33回見学会 参加者33名

9月24日「秋の歴史散歩～両国～」  
案内人 女流講師：宝井琴鶴師匠（人文34回）  
大相撲9月場所開催中の両国周辺の散策、講談会、昼食会の見学会を開催した。  
〈行程〉両国駅⇒両国橋⇒回向院⇒吉良上野介邸跡  
⇒時津風部屋⇒お江戸両国亭  
〈講談〉夫婦餅（めおともち）  
〈昼食〉鶏ちゃんこ



## 4. 第14回懇親芋煮会

11月16日 参加者12名  
会場：若洲海浜公園キャンプ場

## 5. 第2回常任理事会 中止

12月16日 会場：高円寺事務所

## 6. 新年懇親会 参加者28名

1月27日 会場：銀座 吉乃翔

## ◎新春トーク

林 信行氏（文理11）コロナはどこへ  
丹野 芳和氏（人文14）辰年のできごと

## 7. 会報「乾坤」

稲村英夫広報部会長（文理16）を編集長に東京ふすま会の機関誌として、16頁立てで年3回発行した。

## 8. ふすま読書会

コロナ禍で休会していた伝統の読書会が3年振りに5月に再開されました。  
高円寺事務所です3カ月毎に開催、新規会員募集中。  
〈連絡先〉高山 今朝雄氏（文理10）

## 9. ふすまゴルフ会

令和5年度は5・6・9・10・2月の5回開催。  
令和6年度も平日だけでなく土日祝に開催予定、初心者大歓迎、新規会員募集中。  
〈連絡先〉野田 順一氏（人文8）

## 10. 校友会関連

令和6年3月2日校友会主催の首都圏ネットワーク総会・同窓生セミナーが開催され70名超の参加があったが、当会からは22名が参加した。  
卒業生講演は当会会員の国立極地研究所名誉教授佐藤夏雄氏（理1）が行った。

## 令和6年度行事予定

令和6年

5月18日(土) 第1回常任理事会 高円寺事務所  
6月2日(日) 理事会及び総会 学士会館  
8月1日(木) 乾坤159号発行  
9月中旬 第35回見学会  
10月or11月 第15回懇親芋煮会  
11月or12月 第2回常任理事会 高円寺事務所  
11月29日(金) 乾坤160号発行

令和7年

1月下旬 新年懇親会  
3月31日(月) 乾坤161号発行

事業部会長 齋藤 彰（理18回）





## 初めて、大学キャンパス内で総会が開かれた！

山形支部



新型コロナウイルス感染者の数が少しずつ減少して、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられた昨年の5月から1年が過ぎた。しかし、「コロナ」が完全になくなったわけではない。

また、このところ、各種の感染症が増えてきたり、日中の暑さや朝晩の温度差が大きかったりして、熱中症や体調にも十分気を付けて過ごしたいものである。このような中、令和6年5月18日(土)、ふすま同窓会の本部総会の会場が、これまでの市内ホテルから小白川キャンパス内の、理学部4階にある「ふすまホール」において開催され、本部総会に引き続き、山形支部総会も開催された。

ここに、山形支部の令和5年度事業について、少し報告しておきたい。

### 【談話会】

#### 第1回（小旅行）

令和5年6月16日(金)に24名の参加を得て、マイクロバスでの小旅行となった。

《いにしへの風土記を紐解く》ということで、まずは「高畠町郷土資料館」で予備知識を仕入れ、また、直木賞作家、戸川幸夫氏（山高13回中退）の『高安犬物語』ゆかりの〈犬の宮〉や〈猫の宮〉などを巡り、さらに午後からは、人間のすべての表情を表現しているといわれる「玉龍院の五百羅漢」に感嘆したり、大正12年から平成22年まで高畠石の採石場であった「瓜割石庭公園」などを見学した。

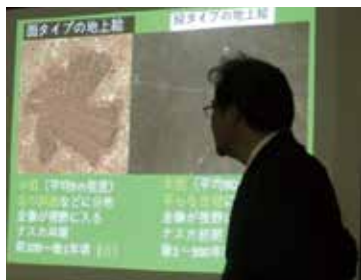


他にも高畠には亀岡文珠などいろいろあって再訪したいところである。

#### 第2回

令和5年11月10日(金)に同窓会館で、人文社会科学部の坂井正人教授から、《山形大学におけるナスカ研究の現状や展望》について映写を使つての講話をいただいた。

多忙で全国的に紹介されている先生には、飽くなき研究を垣間見る思いでお話を伺い、貴重なひとときで、また和やかな懇親の場でもあった。



#### 第3回

令和6年2月3日(土)に同じく同窓会館で、講師をお願いした高橋太一氏（人文21回）は、仕事の傍ら「琴古流尺八龍童会」の会主として、お父上の高橋龍童師から二代目「高橋龍童」を襲名されている。

現在幅広い演奏活動を行っておられる高橋氏から、尺八演奏を入れながらの《虚無僧・尺八・いまむかし》と題してのお話は、大変趣のある楽しい時間であり、恵方巻を食べながらの懇親会もまた格別であった。

### 【山形・仙台支部交流いも煮会】

令和5年9月9日(土)に、本部主催による山寺でのティーデマン碑供養が行われた。その後の山形と仙台支部との交流いも煮会は、門前の「ふもとや本店」で開催された。



久しぶりの交流いも煮会であり、仙台からの参加者5名を含む総勢22名で、和気あいあいと賑やかで楽しいひとときを過ごしたことはもちろんである。

### 【ふすまの日・ふすまの夕べ】

「ふすまの日・ふすまの夕べ」は、令和5年10月20日(金)に「ホテルメトロポリタン山形」で開催された。

81名の参加者には学生会員も加わり、先輩後輩が仲良く酒を酌み交わしての会場は楽しい雰囲気でも盛り上がった。

令和6年度からは会を更に充実させて、本部が主催となり、これまでの「ふすまの日・ふすまの夕べ」から「ふすまの集い」と名もかえて、全国の仲間と語り合いさらに親睦が図られる。

山形支部長 戸石健二（人文1回）

## 仙台は「彫刻のまち」でもある

仙台支部

106万人強が暮らす仙台市は、東北の中心都市として色々な顔を持っています。

緑が多い（杜の都）、18の大学がある（学園都市）、全国の企業が拠点を置く（支店都市）、世界的ピアノコンクールやジャズフェスティバルが行なわれる（音楽の都）、数多くの施設を持つ（文化都市）など、そして（彫刻のまち）でもあります。

昭和52年度、市政施行88周年記念事業として始められた「仙台市の彫刻のあるまちづくり事業」は、街の緑の空間に彫刻を配し、芸術性豊かで文化の薫るまちづくりを目標に推進されました。

平成13年3月までの第1期に12作品、第2期に12作品を設置し、24年間にわたり、1年1作ずつ設置して事業を完成させました。（計24基が、公園・墓苑・博物館・市役所・区役所ふれあい広場・園芸センター・駅前広場・メインストリート等にあります。）佐藤忠良・船越保武・一色邦彦・雨宮敬子・朝倉響子・山本正道等の国内著名作家、そして海外有名作家の作品が街の景観に彩りを添えています。

この事業は、学識経験者からなる「仙台市彫刻のあるまちづくり委員会」の審議報告に基づいて、場所の選定、その場所にふさわしい作風の彫刻家の選定、作者の現地視察で作品の構想、制作案の作成、さらに模型による現地シミュレーションを実施し、作品の決定設置というオーダーメイド方式「仙台方式とも呼ばれる」の手順で進められ、それらは新たな美の創造をして市民に親しまれ、杜の都仙台の伝統的まちづくりの象徴ともなっています。



「夏の思い出」(メイン定禅寺通り緑地)  
作：エミリオ・グレコ

仙台は、市民にとって夢と希望の持てる都市であるが、最近話題の多い将来ビジョン、特に人口問題一極集中の流れの中で他の地域の衰退が相対的に現実化しており、国策の推移も気になるところであります。

まずは今を大切に暮らすことが肝要かと思えます。

副会長兼事務局長 宮城洋三（文理5回）

## 英書研究会案内

札幌支部

石垣祐輔（文理英文、1961年卒）と紺谷友昭（文理哲学、1962年卒）と私（文理経済、1968年卒）とで月1回第2金曜日に、今はOrwellの小説1984（1949）を読んでいます。四部構成で、配給の二オンスの重さのチョコレートを母子三人で分ける場面（第二部第七章）まで進んでいます。ペンギンブックでなく、同じ著者による寓話Animal Farm（1945）と一緒に買ったハードカバー（Houghton Mifflin Harcourt）を使っています。

当番の人が1回に4ページ近くを一文ずつ音読して訳します。発表者の訳とそれを聞く人が考えてきた訳とで違いが生じると、通常の英文法や語法を確認したり事柄について知識を深めたりします。たいていは解決しますが、まれに平行線で終わることもあります。「ここは重要だぞ」との一声でおたがいの考えを述べることもあります。辞書は二人が小型で軽い『岩波英和辞典』（新版、1958）を持ってきます。

部屋の鍵をもらえるのが午後1時です。当番の人の発表の始まりは午後1時半で終りは4時です。そこで解散です。途中で1回休憩します。プリントを用意するかどうかは自由です。場所は「かでる2・7」というビルの一室です。こういう英書研究会です。ご参加をお誘いします。

オーウェルのこの小説『一九八四年』は4月のある寒い日に時計が13時を打つところから始まります。5月2日にウィンストンがジュリアに会いに大家族と乗り合わせた木製の座席の列車から降りて森に入るとブルーベルが咲いています（第二部第二章）。4月の終わりころになると英国では森にブルーベルの花が咲くことがツイッターを見ていると分かり、いとおむ気持ちもうかがえます。日本で言えば山桜を愛でるようなことかもしれません。

ディフォーの『ロビンソン・クルーソー』（1719）では難破した船から運ばれたものの中にあつたごみのようなものが偶然芽を出してのちに大麦と分かりました。全部で十か十二ほどの穂が出たとクルーソーは記録しました。孤島のクルーソーがこの数字を過小にも過大にも偽る動機は存在しません。嘘でない数字を記録することは望ましいことです。ところがオーウェルの『一九八四年』では嘘でない生産量を誰も知らないかもしれません（第一部第四章）。そういう社会ですが、それでもブルーベルが咲く森の小道を歩いたりすることは変わらないのだ、と思います。ちなみに、寓話『動物農場』の3匹の犬のうちの1匹の名前はブルーベルです（第一章）。「かでる2・7」の向かいの北大植物園にブルーベルが育っています。

遠藤 薫（文理16回）



## ふすまの日・ふすまの夕べ

令和5年度の「ふすまの日・ふすまの夕べ」は、令和5年10月20日(金)、山形市のホテルメトロポリタン山形にて、多数の同窓生・関係者に加え、現役学生からも出席をいただき、盛大に開催されました。

午後6時、当番幹事を代表して当方から開会のことを申し上げ、はじめに、お亡くなりになられた恩師及び会員の方々のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。

続いて、ふすま同窓会の高橋節会長、戸石健二山形支部長からご挨拶をいただき、山形大学の是川晴彦人文社会科学部学部長、並河英紀理学部学部長から、大学の近況等を含めてご祝辞を賜りました。さらに、樋口浩朗校友会事務局長からもご祝辞を頂戴し、祝電が披露されました。



その後、ご多用の中ご出席いただいた鈴木亨人文社会科学部副学部長、ふすま同窓会の長沼龍平顧問、野村一芳顧問をはじめ、仙台支部の方々などのご来賓が紹介され、あわせて、模擬裁判実行委員会の丸田蒼第51代委員長(人文社会科学部3年)、松井友哉次期委員長(人文社会科学部2年)をはじめ、現役学生の出席者8名が紹介されました。



そして、加藤啓先輩(文理2回卒)の音頭で声高らかに乾杯を行い、懇談に入りました。懇談中は、大戸勇ふすま同窓会仙台支部長、丸田模擬裁判実行委員長からのご挨拶もいただき、会場内は、久しぶりに集まった同級生、先輩・後輩が、時代や学部を超えて親睦を深め、大いに盛り上がりました。

やがて会も終盤となり、宮城洋三先輩(文理5回

卒)の先導により、山高の全寮々歌「嗚呼乾坤の」、山形大学学生歌「みどり樹に」を出席者で斉唱しました。

最後に、令和6年度の幹事となる人文学部・理学部の21回卒及び36回卒を代表して、人文21回卒の高嶋智弘次期幹事の挨拶により、来年度の再会を一同で誓い合うとともに、出席同窓会員の中で最年少であった高山哲平さん(人社4回卒)の音頭で、声高らかに万歳三唱を行い、会を締めくくりました。



新型コロナにより、この会も令和2～3年度は中止を余儀なくされ、4年度に再開されましたが、学生歌等は“心の中での斉唱”をお願いせざるを得ないなど、まだ制約の多い中での開催でした。今回は、コロナもようやく5類に移行し、寮歌や学生歌も再び全員で力強く歌いあげることができました。

コロナ後は人々の行動様式等にも多くの変化が生じ、単純に以前の社会に戻ることは出来なくなっていますが、コロナ前の、そしてそれ以上に活気溢れる社会にしていくには、何よりも人と人との繋がりが大切であろうと思います。そうした意味でも、当日、同窓会の役員・事務局の皆様のお働きかけにより、現役学生にもこれまでにない多くの参加をいただき、大変幅広い世代が集い、同じキャンパスで青春時代を過ごした仲間として世代を超えて語り合い、絆を深められたことは、誠に意義深いものであったと感じております。

結びに、「ふすまの日・ふすまの夕べ」の益々のご盛会を祈念申し上げますとともに、本会の開催にあたり、ご多用の中、多大なるご指導・ご協力をいただきました皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます、報告とさせていただきます。

当番幹事 吉田正幸(人文20回)



## 「蓮(ハス)」との出会い～未知の魅力と多様性溢れた観賞植物～

安達 正司 (人文5回)

大学卒業後は、主に県職員として現役時代を過ごしてきたが、今思えば仕事人間であったかなあ～と思いつけている。ただ高校・大学を通じての友人関係だけは少し自慢できるかもしれない。

数年前に高校時代の友人の勧めもあって、「寒河江蓮文化研究会」に入会する機会があった。誘われるまま何気なく入会してしまったが、植物系にあまり関心のない私が今もその蓮の育成に携わっている。我ながら不思議な習慣になってしまっている。

魅力がないといえばウソになる。蓮は仏教との結びつきが深く、極楽浄土には蓮の池があるという。蓮の誕生は一億年前の白亜後期頃と推定され、原産地は全世界にあり特定はできないが、北半球を中心に生息してきたらしい。日本には道元禅師が中国から持ち帰ったといわれているが、色々文献等を調べても未知の領域が多い。それが魅力かもしれない。

したがって種類も豊富で、日本でも多種交配を重ねた結果2000種以上もあるといわれている。その色・形・大きさなど多様性に溢れている。研究会ではそのうちの約60種の蓮を研究の対象にしてきたが、近年は育成栽培管理の問題もあり約40種に絞り管理している。その色や形に多様な形態があり不可思議な魅力がある。千年以上の歴史を持つ「古代蓮(行田蓮)」というのもその領域にある。



蓮に似たものに睡蓮がある。どちらも水の中で育ちとても綺麗な花を咲かせる。しかし植物学的には全く別の植物で、蓮は空中で花を咲かせるが、水蓮は水面上が一般的で、蓮の蓮根(レンコン)は食べられるが、水蓮の塊根は食べられない。蓮の葉は撥水性があり切れ込みがないが、水蓮は撥水性が無く切れ込みがあるなどの違いがあり、異種の植物ではあるが一般的には見分けがつかない点もある。

また、蓮の名前の由来だが、花の散った後の果托(かたく)が蜂の巣に似ていることから「蜂巣(ハチス)」が変化して「ハス」になったといわれている。古事記にもハチスの記述があるという。

蓮に関する詳細はこれくらいにして、実際のところはその育成には毎年植替えの必要があるなど手間暇が



かかるのだが、それが魅力の一つかもしれない。手塩にかけて何とやらだ……。蓮は花が咲く際にポンという音がするといわれているが、未だ残念ながら誰一人その音を聞いた者がいない。俗説かも?!音を聞いた人がいたら是非教えてほしいものだ。

花の命は短く4日間しか咲いてくれない。桜どころではない。4日目の夕方にはアツという間に散ってしまうのである。その“儂さ”もまた魅力の根源かもしれない。

我が家には現在14～15鉢の蓮が育っている。その鉢の中にはメダカを飼っている。ボウフラ対策だ。可愛いメダカも何と増殖中だ。

話は横道に逸れるが、皆さんはNHKの「チョコちゃんに叱られる」という番組をご存知だろうか。以前の話だが「大人になるとあつという間に1年が過ぎるのはなぜ?」という質問があった。チョコちゃんは「大人になると人生にトキメキがなくなったから」と答えていた。千葉大学の一川誠教授によると、時間の感じ方には心がどのくらい動いているかが重要とのこと。言い換えるとトキメキをどのくらい感じるかで変わるのだという。19歳くらいから早く感じるのだとも。

さてさて、皆さんはどうお感じだろうか。ボーっと生きてると過ぎる時間が短いらしい。実際今年ももうあつという間に半年ほど過ぎてしまっていると感じている。

時間は皆平等に与えられているというが、私たちの日常生活に好奇心をもってときめく様な出来事を創出する工夫も必要ということかも知れない。

今年も蓮という未知の観賞植物と向き合ってトキメキと煌めきを感じながら過ごしていきたいと感じている。「ポン」という幻の音を追いつけてみたいとも思っている。



# ふすまの そばの ライラック

令和6年度

初めまして。「ふすまのそばのライラック」執筆担当、山形大学人文社会科学部3年の藤川尚也、千葉幸太と申します。このページでは、現在の山形大学生がどのような生活を送っているのか、また編集者のふるさとの話などを藤川と千葉の対話形式を含めて生の声をお伝えできればと思っています。最後までどうぞお付き合いください。

では自己紹介といきましょう。初めに藤川尚也から紹介させていただきます。私は徳島県に生まれ、徳島で育ち、ご縁があって山形大学に入学いたしました。前年度までは居合道同好会に所属しておりました。現在は中学校からの目標である高校の国語教師を目指し勉学に励んでおります。

続いて千葉幸太の紹介をさせていただきます。私は宮城県生まれ宮城県育ちであり、現在は宮城県から山形大学に通っています。私自身小説が好きであり、大学においてより深く近現代文学を学びたいと考へ人間文化コースに入学しました。現在は教職と並行して公務員試験の対策もしているためなかなかハードですが、充実した大学生活を送っています。通いということもありサークル等には所属していませんが、アルバイトとして塾講師をしています。

稚拙な文章ではございますが、皆様にお楽しみいただけるよう作成致しました。「ふすまのそばのライラック」、スタートです！

## Yamagata Campus Life in 2024



**藤川** ここからは対話形式でお送りしていきます。

**千葉** 山形大学の学生たちは普段どのような生活を送っているのでしょうか。

**藤川** 前年度から新型コロナウイルスが5類に移行し、キャンパスにも活気が溢れているのを肌で感じています。

**千葉** ちなみに、藤川さんはどのようなところで山形大学の活気があふれているのを感じますか？

**藤川** 大学の食堂利用者が増えているところですね！感染対策のアクリル板も撤去されて、開放的な空間で食べるご飯は、疲れた心と体を癒してくれる至福の時間です！

**千葉** 確かにそうですね。みんなでワイワイ楽しくご飯が食べられるのは、5類に移行した恩恵が顕著に見られますね。学食といえば、大学内にも様々なメニューが見られますが、どんなメニューが人気なのでしょう？

**藤川** ふっふっふ、こんなこともあろうかと、山大生数人にアンケートをとって来ました！小白川キャンパスには厚生食堂と生協食堂の2種類の食堂がありますが、今回は厚生食堂を取りあげます！人気なのは「チキン南蛮」「ハンバーグドリア」でした！ちなみに千葉さんはお気に入りのメニューはありますか？

**千葉** 私は「チキン南蛮」一択ですね！おいすぎてご飯がすぐになくなりますよ。厚生食堂のメニューは安いうえに味噌汁やサラダもついてくるのでお得感がありますね。

**藤川** さて、このままでは食堂の話だけで終わってしまうので、ここで我々3年生が将来に向けて取り組んでいることを紹介していきたいと思えます！

**千葉** 自己紹介の部分でもお話ししましたが、私は教職と並行して公務員試験の対策



をしています。将来的には地方公務員か国家公務員になりたいと考えています。現在は生協の公務員講座を受講しており、ほぼ毎日勉強の日々ですね。藤川さんは将来に向けて取り組んでいることは何かありますか？

**藤川** 私は先日、教育実習に行って、実際に自分が教師としてどのような努力をするべきなのか、どのように生徒と関わるべきなのかを学びました。今後は教員採用試験に向け、模試や講座も受ける予定です。お互い忙しくなりますね。



**千葉** やはり3年生は就職活動や様々な試験に近いこともあり、結構忙しいですね！

## 教えて！ あなたのサークル

ここでは、藤川が所属していた居合道同好会について紹介していこうと思います。この記事を書くにあたり、サークル長に取材をして参りました。では始めていきます！

居合道同好会は現在、小白川、米沢、鶴岡の三つのキャンパスで活動しており、19人の部員がいます。普段は大会や昇級審査に向けた稽古に熱心に取り組んでおり、大学卒業までに二段を取得することを目標としています。さらに、今年度からは東北芸工大など他の大学と合同で稽古を予定しており、夏には合同合宿も企画されているとのことでした。昨年度までは感染予防の為出来なかった多くのことが出来るようになり、より剣道場に活気が溢れています！（写真は掲載許可を得て掲載しております。）



## ふるさとの は・な・し

**藤川** 最後に少しだけ、私たちの故郷のはなしをしたいと思います。現在の山大学生は山形出身より宮城出身の方が多というデータがありますが、宮城出身の千葉さん、宮城県の魅力を一言で表してください！

**千葉** 宮城県の魅力は何といっても住みやすさだと思います！都会過ぎず田舎過ぎず、丁度いい雰囲気宮城県の魅力だと思います。また、



松島など観光資源も豊富で、県外、海外からの観光客も多く見られま

す。青葉まつり、七夕まつり、光のページェントなど、季節によって様々なイベントが開催されるのも魅力の一つだと思いますね！さらに、宮城県は名物として牛タンが知られていますが、牛タン以外にも海産物などたくさんのおいしい食べ物があります！

**藤川** 私も休日には仙台で遊びますが、とても素敵なおところですね！丁度いい、住みやすいという言葉がピッタリな街だと思います！

**千葉** 藤川さんは徳島県出身ということですが、徳島県の魅力はどんなところにありますか？

**藤川** 自然豊かで、阿波踊り、人形浄瑠璃、藍染めなどの伝統に触れやすい環境なのがいいポイントだと思います！小中学校でこれらを体験することも多いため、他県ではマイナーだと知りびっくりすることもあります。また、名物のすだちは夏の暑さにぴったりです。牛タンと合わせるのもいいかもしれませんね！

**千葉** 確かに、徳島と言うと阿波踊りが有名なことは知っていたけど、小学校、中学校で体験することができるのは初めて知りました！実際に見たことはないからいつか徳島に訪れてみたいな！

**藤川** でも、そんな我々の愛する故郷と比べても山形は素敵な街だと思います。何より人が優しい！

**千葉** 山形は本当にいいところですね！空気はおいしい、食べ物もおいしい、これ以上上げるときりがない！

**藤川** まだまだ語りたところですが、そろそろお別れの時間が近づいてきました。こういった形で記事を作成するのは初めてだったため、上手くできたか不安ですが、皆様楽しんでいただけたなら本望です！

**千葉** 最後までお付き合いいただきありがとうございます！またどこかでお会いしましょう！



藤川尚也・千葉幸太（人文社会科学部3年）

# 学生等支援事業の概要について

ふすま同窓会では、これまで、同窓会の自主事業、学生等への支援事業、そして大学等との協賛事業を3本柱に、所要額を予算化し、毎年実施しています。このうち、学生支援事業については、模擬裁判や海外留学を始め、さまざまな教育研究活動やサークル活動を対象にしてきており、学生が生き生きと活動し、意義ある学生生活を送ることを願うとともに、同窓会への関心度アップも期待しているところです。

学生支援事業は、昨年度までは、特別会計「学生支援基金」において予算化され実施していました。しかし、より迅速に希望に沿った内容での支援とするためには、特別会計の枠組みでは限界がありました。そのため、適時・的確に、かつ効率的に実施できる方策を検討し、令和6年度からは、特別会計を廃止して、一般会計の枠組みの中で学生支援事業を行うこととし、時代の流れにも即応した臨機応変な対応が可能となるように改めました。

なお学生支援事業の実施に当たっては、従来通り、両学部の副学部長さんと同窓会長等で構成する「専門委員会」で協議・検討をしていくことになります。

それでは、これまで実施してきた学生支援事業を中心に、項目別に紹介します。

## 第51回 模擬裁判「男性性犯罪被害」



今回は「男性性犯罪被害」をテーマとして行われた。表面化していない複雑な背景を明らかにするために、山形地方裁判所や山形地方検察庁の協力をいただきながら、県議会議員の方や、被害者支援センターなどの関係機関への取材を行い、また直接、被害者の方の声を聞いて、脚本や演技に反映させたとのこと。今回の公演は、某芸能事務所の問題が報道される前にテーマを決定し、挑戦したことを讃えるとともに、今後の活躍に期待したい。

第52回模擬裁判の公演は、今年12月6日(金)、7日(土)に「特殊詐欺」をテーマとして実施される。

## 人文社会科学部海外研修報告会(タイ・ドイツ・モンゴル)

令和4年度に実施された人文社会科学部の海外研修の報告会(タイ・ドイツ研修)が令和5年7月5日(休)に、実習に参加した学生から実習の成果の報告があった。

タイの参加者からは、令和4年12月～令和5年1月にかけて2週間、タイ北部のメーソット、チェンマイ、チェンライで、学生と交流、カチン村でのホームステイ、ミャンマー移民・避難民のための学校や病院、NGOの訪問などを実施したとのこと。

ドイツの参加者からは、令和5年3月に2週間、ドイツ語を学べるTUDIASによる語学学校で生活についての報告があった。午前は授業、午後はガイ

ドツアー。街並みの美しいドレスデンは、近代的な橋が建設され、景観が損なわれてしまったとのことで、世界遺産登録が取り消されたとのこと。

また、令和5年度の人文社会科学部異文化コミュニケーション1の報告会が11月27日(月)に行われ、新モンゴル学園において、サマースクールで日本語教員を務めてきたこと、サマースクールでの生活や担任としての業務、作文の授業を受け持ったの感想、聴解の授業などについての報告があった。

報告会終了後、ズームによる、新モンゴル学園の生徒との交流が行われた。

## 第13回 安達峰一郎記念世界平和弁論大会

「第13回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和5年11月12日(日)に山辺町中央公民館で開催された。昨年までは、山形大学キャンパスで実施されたが、今年は、安達峰一郎博士の生誕の地山辺町での開催となった。

県内外から応募された原稿を審査し、予選を通過した中学生6名、高校生6名が弁論大会に臨み、高いレベルでの弁論大会となった。最優秀賞は、中学生の部で、立命館慶祥中学校3年の西海理心さん、高等学校の部では、公文国際学園高等部1年の岡島花蓮さんが受賞した。

西海さんは、「本当に必要なこと」と題し、貧困問題解決のために新たな支援策を作ることが必要だと主張。岡島さんは「すべての若者に夢を！」と題して、カンボジアに英語の絵本を届ける活動を通じて、教育の大切さを論じた。ふすま同窓会から、高橋節会長が優秀者にふすま同窓会長賞として、記念の盾と図書券を贈った。





## 第34回 ティーデマン・ふすま賞授賞式

第34回（通算53回）ティーデマン・ふすま賞の授賞式が令和5年10月21日(土)人文社会科学部1号館2階205教室で行われた。受賞者は、人文社会科学部人文社会科学科人間文化コース令和5年3月卒業、山形大学理工学研究科博士前期課程平成5年3月修了の2名です。



### 論文の概要

**性は生を裏切るか  
未来に反対するクィア理論へのラカンの応用**  
人文社会科学部人文社会科学科卒業  
八島 本弥

本研究は、アメリカの文学研究者リー・エーデルマン（1953-）の著作“*The future is kid stuff*”（1998）および*No Future*（2004）をもとに、彼の主張におけるラカン理論の援用の仕方の妥当性について、ラカン派精神分析の立場から再検討を行ったものである。上記の著作において彼は、彼が「再生産的未來主義（reproductive futurism）」と呼んだ（再）生産への信仰を根底に抱える社会への批判と、「クィア」の人々に「死の欲動」（フロイト）の力を見出す独自のクィア理論の提唱を行っていた。そして彼の主張の理論的基盤には、フランスの精神分析家ジャック・ラカン（1901-1981）が遺した様々な理論装置があった。

本研究では、日本のエーデルマン受容においてこれまで着目されていなかったラカン派の理論装置を用いて、彼の主張に対する詳細な分析を行っている。加えてその結果をもとに、彼がラカンを援用する仕方はラカン派の立場から見ても肯定できるものなのか、および彼の主張に賛同できるかについて考察した。

分析の結果、彼のいう（再）生産への信仰について、その基盤である「〈子ども〉の幻想」という概念はラカン理論で成立しないものであること、および彼の「クィア」理解はラカン派精神分析の立場としては適切ではないことなどが導かれた。

この結果を踏まえ本研究では、エーデルマンがラカンを援用する仕方には、主に「政治」、「享樂（jouissance）」および「倫理」を論じる仕方において誤り・問題点があり、それゆえに彼の主張に直接的に賛同することはできないと結論付けられた。

**X線偏光観測衛星IXPEによる  
トランジェント天体からの偏光検出の可能性**  
理工学研究科博士前期課程修了  
寺島 政伸

今回賞をいただいた研究では、ガンマ線バースト（GRB）と呼ばれる宇宙最大の爆発現象に付随して数日程度輝く「残光」を生み出す磁場構造を明らかにしたいというモチベーションの元、どのくらい明るいGRBなら偏光観測できるかを調査しました。

GRBは非常に遠くで起こる星の爆発現象で、短時間のガンマ線放射（即時放射）とそれに付随してX線などの様々な光を放射して輝く「残光」の存在が知られています。残光は爆発した星から放出される光速に近い噴出物と磁場の相互作用で輝くとされていますが、どのような磁場から放出されているかは明らかになっていません。ここで鍵となるのが、天体から放出される光の振動方向の偏り具合を調べる「偏光観測」です。「偏光観測」はその光を生み出す要因となる磁場の様子を間接的に調べるために非常に有効な方法です。しかし、過去に残光に対してX線偏光観測例は一度もありませんでした。

そこで、私の研究では残光を生み出す磁場の様子を知るために、2021年に打ち上げられた世界で初めて精密にX線の偏光を測定できる「IXPE衛星」を用いると、どれくらい明るいGRBならば詳細な偏光観測ができるかをシミュレーションによって調査しました。その結果、「観測史上最も明るいGRBが発生したとしても、50%程度の確率でしか良い観測とはならない」ということが分かりました。あまりの観測条件の厳しさにIXPE衛星でのGRBの残光観測自体を諦めていましたが、非常に幸運なことにこの結論を得た約2ヵ月後の2022年10月に史上最大の明るさを持つGRBが実際に起こったのです！このGRBは残光と同時に銀河内のガスで散乱されたことで遅れて地球に届いた即時放射が残光を中心としてリング状に観測されるという非常に稀有な天体イベントでした。

あまりの明るさにIXPE衛星もこのGRBを観測することができ、以前から観測シミュレーションをしていた私は指導教員の郡司先生と共に国際的なデータ解析チームに参加して実際の観測データの解析を行いました。解析の結果、偏光を精密に調べることはデータ不足により叶いませんでしたが、観測データから偏光度（光の偏りの度合い）に上限値が付き、放射モデルに制限をかけることができました。このようにして今回のイベントは「GRB残光のX線偏光の最初の観測例」となっただけでなく、「世界で初めてGRBの即時放射と残光の同時X線偏光観測」という快挙となりました。

## 「ふすま文庫」令和5年6月～令和6年5月

令和5.6.16 短歌随想集 .....	大瀧 保(大瀧 保寄贈／文理9回)
9.29 歴史戦争から見た戦後のドイツ .....	渡辺将尚(渡辺将尚寄贈／人文25回)
令和6.2.5 歌集 再生 .....	大瀧 保(大瀧 保寄贈／文理9回)

### 各学部の退職教員

人文社会科学部経済・マネジメントコース      安田 均教授 (令和6.3.31)

## 深 悼

心からご冥福をお祈り申し上げます  
(令和6年5月31日まで受付分)

山高22回文甲	小出 泰男	令和5.3.17	文理5回文・英文	佐々木昭彦	令和4.7.12	文理13回理・物理	渋谷 仙吉	令和6.5.26
山高23回理甲	松縄 淳	令和5.2.22	文理6回文・英文	伊藤 茂道	令和5.7.18	文理13回理・化学	八木 正毅	令和6.1.18
山高23回理甲	青山 英之	令和5.3	文理6回理・生物	田苗 弘	令和5.1.28	文理13回理・地学	金道 繁紀	令和4.8
山高24回文甲	五藤 巳晶	令和3.3.17	文理7回文・法律	清野 元稔	令和6.3	文理14回文・経済	遠藤 行義	令和2.12.28
山高25回文乙	川又友三郎	令和2.3.31	文理7回理・化学	山内 計一	令和6.1	文理14回理・数学	内海 忠勝	令和5.4.14
山高25回理甲	山口 利孝	令和4.12.26	文理7回理・生物	小林 晃	令和5.10.24	文理15回文・法律	高橋 誠	令和5.1.13
山高25回理乙	石井 功	令和5.6.25	文理8回文・国文	菅藤 哲朗	令和5.6.14	文理15回文・経済	竹岡 国輝	令和6.2
山高26回理甲	佐々木孝二	令和4.10.6	文理8回文・経済	村竹 徹勇	令和4.1.13	文理16回文・経済	三俣 壯一	令和5.7.27
山高26回理乙	渡部 格	令和4.7	文理8回文・経済	武田 正	令和5.10.16	文理16回文・法律	佐藤 紀一	令和5.8.18
山高26回理乙	渡辺 薫	令和4.8.15	文理8回文・経済	土門 紹穂	令和5.11.24	文理17回文・法律	西田 正博	令和5.1.19
山高26回理乙	成田 光陽	令和2.5.11	文理8回文・経済	阿部 欣一	令和6.4.27	文理18回文・英文	中沢 幸子	令和5.1.29
山高27回文甲	鈴木 昌	令和6.5	文理9回文・法律	畠山 治久	令和5.7.4	文理18回理・化学	照屋 博之	令和5.3.25
山高27回文乙	永井 和雄	令和5.6.8	文理9回文・経済	鈴木 孝哉	令和4.8.11	人文1 経済	小坂 義博	令和5.5.20
山高28回文甲	館山 俊治	令和4.1.10	文理9回理・物理	阿部 司	令和6.1	人文21 哲学	上野 陽子	令和4.1.13
山高28回理科	石垣 忠昭	令和5	文理9回理・化学	鈴木 光泰	令和6.2.28	理4 化学	柿崎 敏	令和1.4.11
山高29回文乙	鈴木 英一	令和2.8.26	文理10回文・経済	雨宮 達	令和5.7.13	理4 化学	菊地 和雄	令和3.11.25
文理1回文・歴史	鈴木 正孝	令和6.1.7	文理10回文・法律	後藤 文夫	令和5.3.5	理6 物理	富田 誠	令和5.5.9
文理2回文・歴史	結城 度	令和4.1.1	文理11回文・法律	斎藤 進	令和3	理9 化学	相馬 知彦	令和4.11.11
文理3回文・経済	沢村 龍司	令和4.11.9	文理11回理・化学	後藤喜代士	令和3.7.26			
文理3回文・英文	今野 幸男	令和5.3.23	文理13回文・経済	小岩 武夫	令和3.3.27			以上 60名
文理4回文・経済	小倉ユキ子	令和4.12.25	文理13回文・経済	芝野 健三	令和5.9			



## 鈴井正孝さんのふすま同窓会へのご貢献を讃える

田宮 良一（文理10回）

「ミスターふすま同窓会」として敬愛されてきた本会顧問鈴井正孝さんが令和6年1月7日、浄土に旅立たれました。享年93歳でした。ご葬儀は、山形市が賑わう初市、1月10日に時節柄、家族葬で営まれました。

平成17年、それまで山高先輩が占めてきた会長に、鈴井さんが山形大学文理学卒として就任されました（3期、～23年）。85年記念祭（18年10月）、90年記念祭（22年10月）を成功裏に導き、ホームページを立ち上げ、独立行政法人となった山形大学との連携強化に努めるなど、会長時代のご功績を挙げれば本欄で書ききれません。

鈴井さんは、文理学部文学科東洋史専攻1期生として、昭和28年3月ご卒業されました。特筆すべきことは、高校歴史教師を天職としながら、発足したばかりの現行のふすま同窓会役員に就任、以降、切れ目なく同窓会運営に参画されてきたことです。

当初は副会長、組織が定着してからは会報の編集責任者である広報部長、事務局長を歴任されました。特に書くことがお好きで、事務局長、会長よりも会報編集を続けたいと日頃おっしゃっていました。

「ミスターふすま同窓会」と冒頭書きましたが、ふすまファーストではなく、バランス感覚に優れていました。中国史研究家としての顔もあり多数の論文を著しています。また、地域の町内会長、豊烈神社の氏子総代など社会貢献も多彩でした。

鈴井さんは、好奇心旺盛、少年の心を失いませんでした。允子様とおっしゃるよき伴侶に恵まれ、充実したご生涯であったとうらやましく思っています。

私事ですが、ほのぼの先輩の下、広報部長、事務局長を楽しく務めさせていただきました。ありがとうございました。ご冥福を心からお祈りいたします。



50年記念祭(昭和45年10月)における山形美術館南側公園での記念植樹

後列左端が鈴井さん、前右端は平沢東貴元山高教授（開校時から）

### ◇ 植木市 ◇

コロナ感染症発生し、植木市開催が見合わされたり、縮小して開催されたりしたが、昨年4年ぶりにこれまでのように開催され、今年も例年どおりの開催となった。薬師祭植木市は最上義光公が、大火に見舞われ失われた緑を取り戻そうと住民に呼びかけたのが始まりで、400年を超える歴史あり、日本三大植木市の一つとされています。



今年は以前のように薬師公園と周辺の薬師町通り、山形五中東通りなど約3kmに渡り植木屋さんや多くの店が出店し、植木や民芸品を販売していました。

私は学区内に住んでいるので、以前よくいききましたが、当時、植木を扱う店が多かったが、近年は庭に多くの樹木を植えている家が少なくなっており、出店にも変化が見られる。



## やまがた街角スナップ

### ◇ 御殿堰 ◇

昨年の広報に記載した御殿堰の整備事業が完了し、3月29日(金)に竣工セレモニーが行われた。



十一屋本店とオワゾブルー山形の間を流れる御殿堰は覆われていたコンクリートを取り、蔵王山系や馬見ヶ崎川でみられる黒色の石積み上げを風情のある水路にリニューアルした。山形五堰の水路を紹介する案内板も設置し、潤いのある空間に生まれ変わった。

道路を挟んで東側にある「水の町屋七日町御殿堰」と連続したデザインとなっており、整備エリア内には二つのハートの石があり、探しながら散策を楽しめる工夫を凝らしたとのことです。（H.O）



